

ICD の会との出会いで心的外傷が軽快した特発性心室細動の 1 例

丸山 徹¹、樋詰 貴登士²

¹九州大学健康科学センター、²九州大学心療内科学教室

症例は 20 歳の男子大学生。高校時代にバスケットボールの試合中、突然意識を消失して倒れ、救急車の到着まで人工呼吸と心臓マッサージを受けた（当時 AED はまだ普及していなかった）。搬送先で心室細動と判明し、全身状態が改善した後に臨床心臓電気生理学的検査が行われたが、心室細動は誘発されなかった。ICD の植込みを勧められ、最終的に本人の意思で植込み術を受けた。植込み 1 ヶ月半後に不適切作動（意識下での十数回の電気ショック）を経験するようになった。入浴も外出も出来なくなり、強迫的に自己検脈をするようになった。この頃、両親が ICD の会（患者、家族、医療関係者などで作る NPO 法人、定期的勉強会と常時電話相談を行う）を知り、入会后 ICD の勉強や植込み後の方々との情報交換を通じて、本人と自信を持って接することができるようになった。本人もβ遮断剤の内服下にスポーツとアルバイトに充実した大学生生活を送っている。ICD の会がピアサポートとなり、両親という関係者支援を通して ICD 植込み後の心的外傷が軽快した 1 例と考えられた。